公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2014年12月号

日本野鳥の会80周年

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会①）・・・1
◆トコロジストになろう
「トコロジストを目指して“昼探”三昧」・11
◆探鳥会保険集計結果
（2014年10月分）　・・・・・・・・・13
◆普及室からのお知らせ
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・・・・15
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・17
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・18
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・18

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会①）

連携団体全国総会などでご紹介させていただきましたが、今年度から、財団普及室と関東ブロック所属の８支部は、支部型会員を増やすことを目的とした「会員を増やすための探鳥会」を開催しています。

参考：探鳥会スタッフ通信 2014 年 7 月号『2013 年度「協働探鳥会」取り組み報告』
http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201407.pdf

現在までに12カ所の開催が終わり、非会員211名を含む計261名が参加され、74名がお試し入会されました。これから３回に分けて、各地の様子をご報告させていただきます。

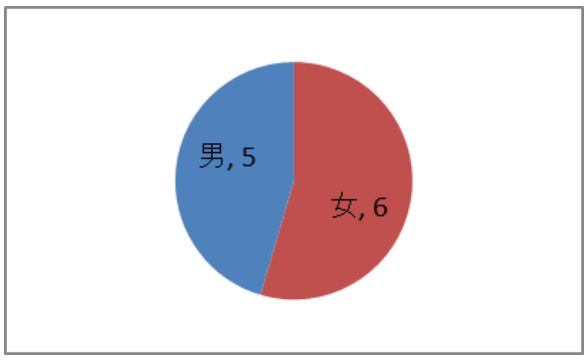
表1.2014年度「会員を増やすための探鳥会」開催予定一覧

日程	開催場所	開催時間	担当支部名
11月9日（日）	水戸市　護国神社の森（通称：桜山）	9時～11時30分	茨城県
11月15日（土）	千代田区　日比谷公園	10時～12時	東京
11月16日（日）	さいたま市　見沼自然公園	10時～12時	埼玉
11月24日（祝月）	渋谷区　代々木公園	9時～12時	東京
11月29日（土）	江東区　猿江恩賜公園	10時～12時	東京
11月30日（日）	渋谷区　代々木公園	9時～12時	東京
	藤岡市　庚申山総合公園	9時30分～11時30分	群馬
	宇都宮市　中央公園	9時30分～11時30分	栃木
12月6日（土）	立川市　昭和記念公園	9時30分～12時	奥多摩支部
	千葉市　千葉公園	10時～12時	千葉県
	松戸市　江戸川	9時～11時30分	千葉県
12月14日（日）	土浦市　霞ヶ浦総合公園	9時～11時30分	茨城県
1月17日（土）	横浜市　鶴見川	8時30分～11時30分	神奈川支部
2月14日（土）	横浜市　山下公園	①9時30分～10時30分 ②11時～12時 ③13時～14時	神奈川支部

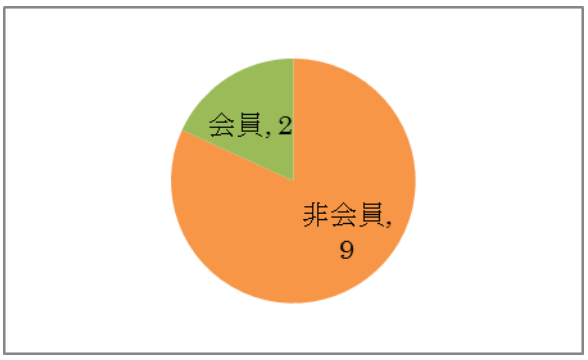
『水戸市桜山ビギナーズ探鳥会』（茨城県）

【日　時】2014 年 11 月９日（日）９時～10 時 50 分
【天　候】曇りのち雨
【場　所】茨城県護国神社の森（通称：桜山）（茨城県水戸市）
【参加者】11 名　【リーダー】４名　【お試し入会者】４名（非会員参加者の４割）
【広　報】
＜新聞＞３社（朝日新聞、東京新聞、茨城新聞）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）
＜チラシ＞牛久自然観察の森

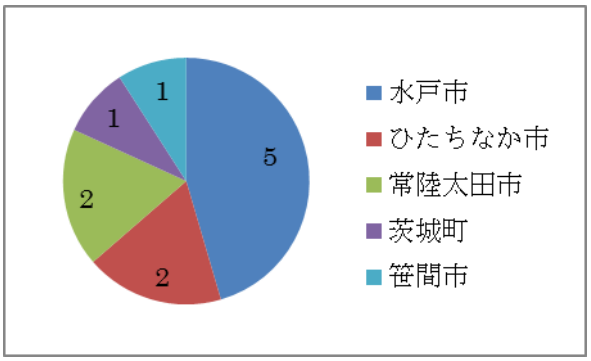
・性別



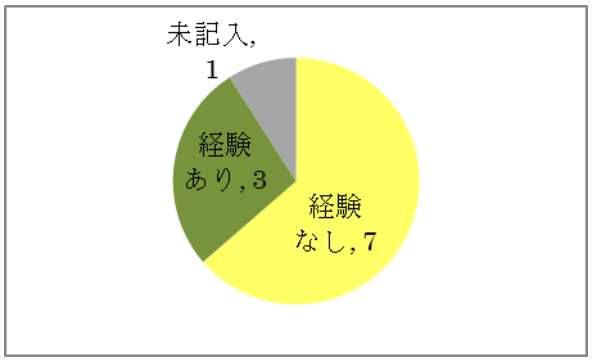
・会員／非会員



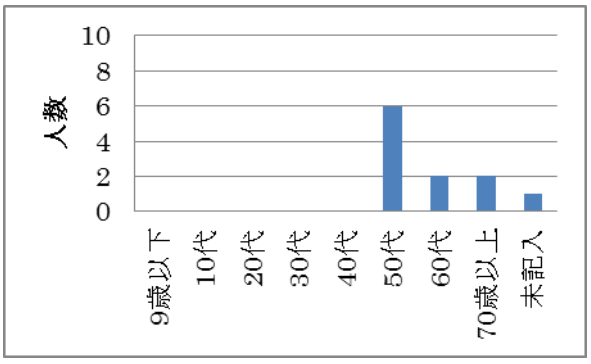
・お住まい



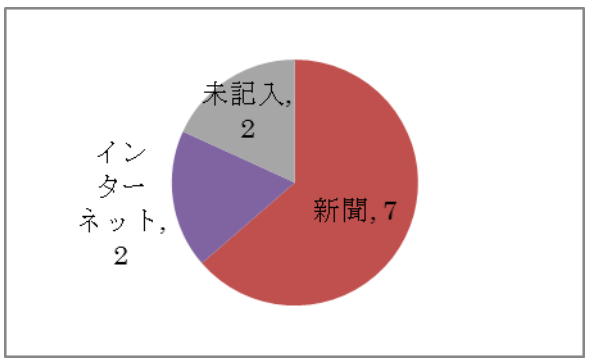
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

茨城県水戸市にある「桜山」は、日本三名園の１つである偕楽園に隣接した緑地で、奇数月には支部の定例の親子探鳥会も開催されています。偕楽園とその周辺の公園や緑地は、偕楽園公園として整備され、市民や多くの観光客に親しまれています。

当日は、50 代以上の方を中心に、非会員９名を含む 11 名の参加がありました。探鳥会は、メインのリーダーが先導し、残りのリーダーが間に入りサポートするかたちで進みました。

集合場所の駐車場から階段を登り、「桜山」で森林の鳥を観察した後、「もみじ谷」や「猩猩（しょうじょう）梅林」近くの川で水鳥の観察をしました。

■探鳥会の様子

雨が心配される中での開催となりましたが、集合場所には、ワゴン車のトランクのドアを屋根にし、その下に机を置いた受付が作られており、濡れないような工夫がされていました。また、支部で用意された双眼鏡の貸出も行っていました。

開始のあいさつでは、
「今日はバードウォッチングを通して、鳥がどんな生きものなのかを知ってもらい、鳥を見る楽しみを感じてもらいたいと思います。そして、今回楽しかったので一緒にもっと続けてみたいと思った方は、最後に入会の案内もしますので、ぜひご検討ください。」
とお話がありました。

「野鳥が現れたら、私たちリーダーが鳥を入れますから、遠慮しないで、すぐに覗いてくださいね。取り（鳥）返しのつかないことになりますから。」
とリーダー。カラスが現れたときには、２ 種類いるカラスの説明をし、ものまねも披露。探鳥会は参加者の笑いとともに進行しました。

また、リーダーは小さなホワイトボードも持参されており、野鳥の名前を漢字で書き、由来の説明などに使用されていました。

途中、森林の中では、鳥を見つけるのが難しいこともありましたが、「折れにくいので鎌の柄に使われた」というカマツカの木の紹介があったり、ジョロウグモが逆さまでいる理由を考えたてみたりと、植物や昆虫の説明も交えて参加者を楽しませていました。

川沿いでは、外来種のコブハクチョウが見られ、ヒナを背中に載せて泳ぐ姿やカラスからヒナを守る姿に、参加者からは、
「健気ですね。」
と声があがっていました。リーダーは、
「ヒトと同じように子育てをすることも鳥が親しまれている理由ですよ。」
と話されていました。

雨が降り出したため、探鳥会を早めに切り上げて、屋根のある場所で鳥合わせを行い、観察できた 26 種類（＋コブハクチョウ）を確認しました。

▲前半、森林でシジュウカラを観察

■参加者の声

30 代くらいの女性：近くに住んでいます。もともと自然が好きで、特に植物が好きだったのですが、花や実に集まる鳥たちにも興味がわき、自分で観察するようになりました。よく見る鳥の種類が分かるようになりたくて参加しました。

50 代男性：昨年入会しましたが、探鳥会には参加していませんでした。今回ビギナーというタイトルに惹かれて参加しました。

■まとめ

植物や昆虫の話も交えての探鳥会でしたが、参加者も鳥だけに特別興味があるわけではないようで、メモを取りながら熱心に説明を聞いている姿が印象的でした。

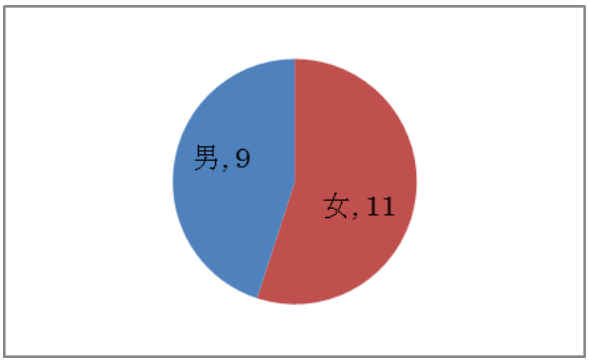
鳥の名前の由来や英名の話などリーダーの知識の深さもさることながら、ホワイトボードを使った説明や笑いを入れた解説など、そのホスピタリティに溢れた姿勢が素晴らしいなと思いました。

（普及室／堀本理華）

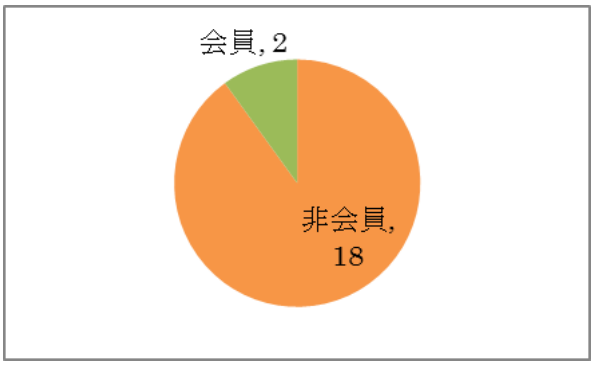
『日比谷公園とお濠でバードウォッチング』（東京）

【日　時】2014 年 11 月 15 日（土）10 時～12 時
【天　候】晴れ
【場　所】日比谷公園とお濠（東京都千代田区）
【参加者】20 名　【リーダー】７名　【お試し入会者】７名（非会員参加者の４割）
【広　報】
＜新聞＞1 社（東京新聞）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）

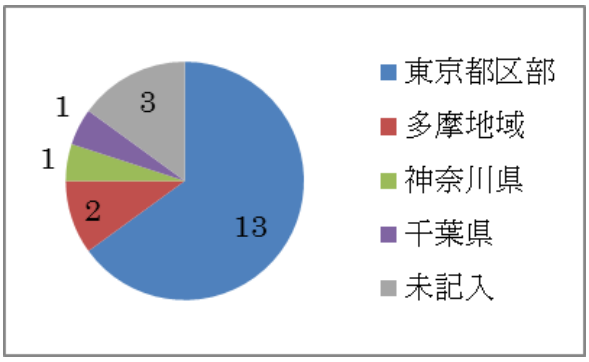
• 性別



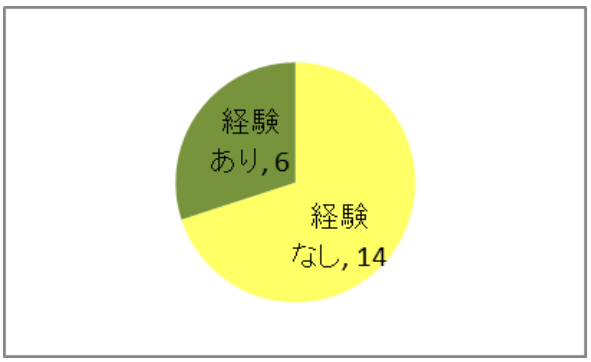
• 会員／非会員



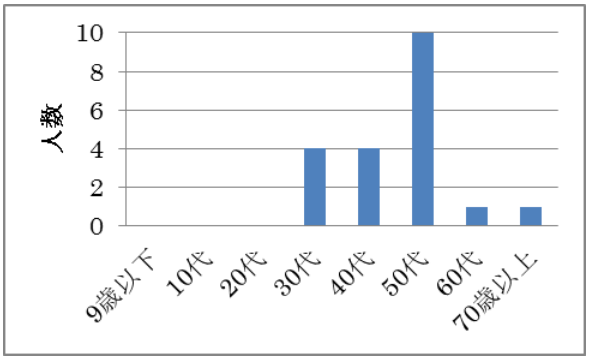
• お住まい



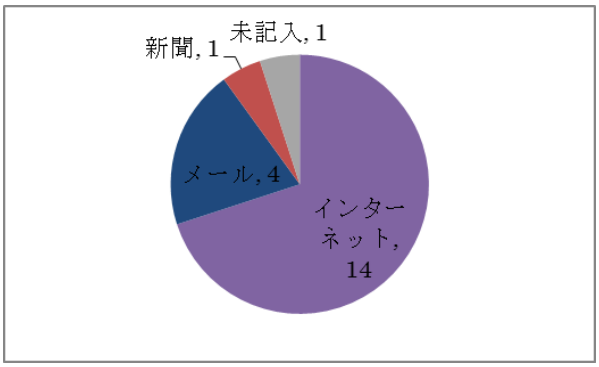
• バードウォッチング経験



• 年齢構成



• 何で知ったか



■探鳥会概要

東京都千代田区にある日比谷公園は、皇居のすぐ外に位置し、公会堂や音楽堂、花壇などが整備され、各種イベントの開催場所や都心で緑をもとめる方のオアシスとして多くの方たちに親しまれています。

当日は、30 代～50 代の方を中心に、非会員 18 名を含む 20 名が参加され、リーダー1 名あたりが 3 名くらいの参加者を対応するかたちで進みました。

探鳥会はまず、集合場所の祝田門から道路を渡り、皇居のお濠沿いで水鳥を観察し、その後、有楽門から公園に入り、池や広場、樹林で観察をするコースでした。

■探鳥会の様子

始まりの挨拶の後、リーダーと参加者数人が緩やかにグループになり、皇居のお濠での観察が始まりました。最初に見つかったのはカワウでした。

「カワウといい、鵜飼いとして知られているウミウと同じ鵜の仲間です。」
とリーダーが言うと、
「これが鵜ですか。皇居にいるとは思いませんでした。」
と参加者。

続いて、ユリカモメやキンクロハジロ、ゴイサギなどを観察しました。参加者は数人ずつ専属のリーダーが付いたようなもので、リーダーに積極的に質問し、リーダーはそれに答えるように説明していました。

公園の中に入ると、目の前の木でメジロが 2 羽押し合いをしているところに遭遇しました。これには参加者も
「可愛い！」
と大喜び。続いて、池ではカルガモが数羽採餌をしており、それもまた時間をかけて観察しました。

樹林では、落ち葉の上でスズメが採餌をしており、リーダーは望遠鏡に入れ、
「葉を返したりしながら、種子を食べています。」
と紹介していました。

鳥合わせは、探鳥会の中で使用した「ミニミニ野鳥図鑑」に掲載されている鳥から確認し、掲載されていない種については、リーダーの図鑑を使って行っていました。

「一番大事な話なのですが、」
と始まったお試し入会の紹介は、
「年会費 3500 円するところを、今だけ 1000 円で、半年間支部報をお送りします。」
と 1 人のリーダーが言うと、別のリーダーから、
「安い！」
という声が上がり、掛け合いのように行われていました。

▲皇居のお濠での観察の様子

■参加者の声

30 代男性：最近、庭園の近くに引っ越しをしたため、よく庭園を散歩しています。そこに鳥がたくさんいるので興味を持つようになりました。

60 代女性：自然に触れ合いたくてバードウォッチングを始めました。都会にありながら、たくさんの鳥がおり、美しさに感動しました。

■まとめ

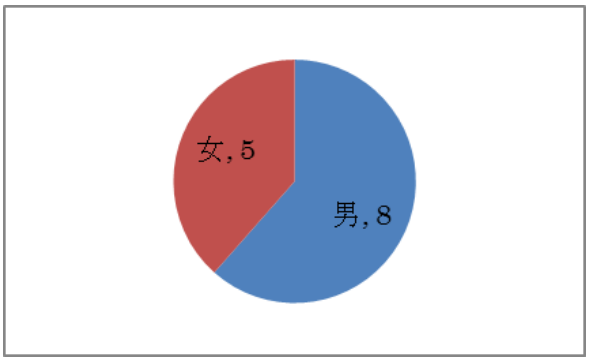
今回観察したのは、スズメやカルガモなど、ほとんどが「身近な野鳥」と言われるような鳥でしたが、リーダーが足を止めて望遠鏡に入れ、説明をすることで、参加者は新たな発見をしたり、野鳥の可愛らしい仕種に気づいたりと、とても満足そうにされていました。身近な野鳥をじっくり観察することの楽しさを改めて感じました。

（普及室／堀本理華）

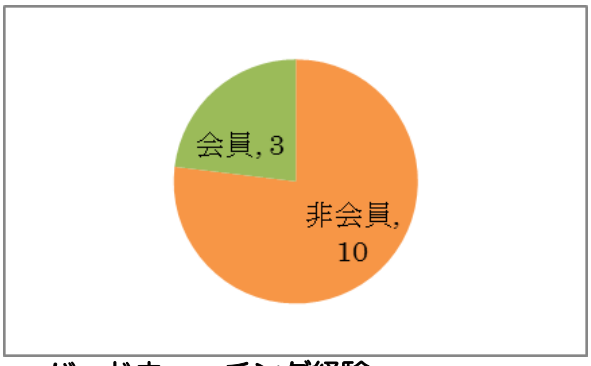
『見沼自然公園「はじめてみよう!バードウォッチング」』（埼玉）

【日　時】2014 年 11 月 16 日（日）10 時～12 時
【天　候】晴れ
【場　所】見沼自然公園（埼玉県さいたま市）
【参加者】13 名　【リーダー】10 名　【お試し入会者】1 名（非会員参加者の 1 割）
【広　報】
＜新聞＞3 社（11/8 読売新聞、11/12 埼玉新聞、11/13 東京新聞）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）
＜チラシ＞さぎ山記念公園

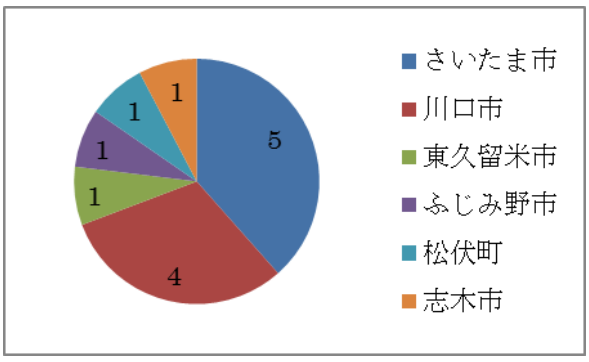
・性別



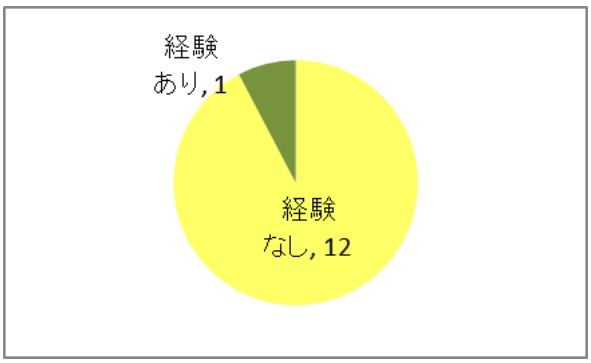
・会員／非会員



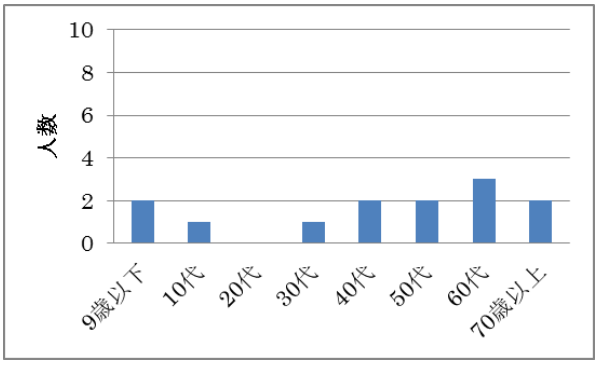
・お住まい



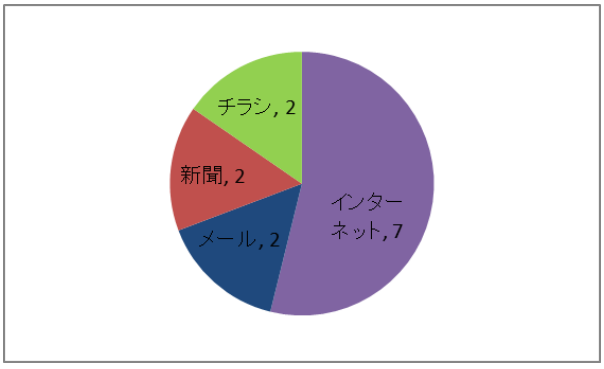
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

見沼自然公園は、埼玉県さいたま市にある公園で、首都圏に残る大規模緑地空間である「見沼田んぼ」の南部に位置します。約10.9ha ある園内には、芝生広場や大きな池があります。

当日は、家族連れや中学生など様々な年代に渡って、13 名の参加がありました。メインリーダーを中心に、参加者１人にほぼ１人のリーダーがサポートするかたちで進みました。

池の野鳥を観察後、池の周りにある林内の歩道を歩き、芝生広場で鳥合わせとなりました。

■探鳥会の様子

受付には支部の旗とともに折り畳み式の机が用意され、配布物はビニール袋に入れて持ち運びしやすいようまとめてありました。バス停や駅、間違いやすい隣の公園などにもリーダーが立ち案内を行っていました。

早めに来た参加者の受付が済むと、
「バードウォッチングは初めてですか？」
「普段はどんなところで鳥を見ていますか？」
などとリーダーが話しかけ、参加者が１人で立っていることがないよう気遣われていました。また、小さなお子さんの相手も慣れているようで、歓迎ムードにご両親も安心されていたようでした。

メインリーダーから本日の趣旨とリーダーの紹介、コース、トイレの案内があり、探鳥会が始まりました。

まず向かった池では、オナガガモやオオバン、バンが見られ、特にオナガガモは餌をあげる方が多いようで、間近で観察できました。各々のリーダーが、
「オナガガモは秋に日本に渡ってくるカモです。オスの尾羽が長いことが特徴です。」
などと説明されていました。

池の周りの歩道を歩く中では、コガモやオカヨシガモ、空にはトビなどが見られ、リーダーは望遠鏡に入れて参加者に紹介していました。コガモのグリーンの美しさや「好きだと言うと、わび・さびが分かると思われる」というオカヨシガモの羽模様に、参加者からは、
「きれいですね。」
と感動の声が上がっていました。

その後も、鉄塔の上のカワウや木にとまったカワラヒワ、シジュウカラなど計 16 種を観察しました。

鳥合わせでは、芝生の上にレジャーシートが用意されており、参加者は座りながらのんびりと鳥の説明を聞くことができました。

▲池での観察の様子

■参加者の声

70 歳以上の女性：この公園でよく散歩をしています。家族が新聞に案内が出ているのを教えてくれて参加しました。

中学生の女の子：小さい頃からインコを飼っており、次第に野鳥にも興味を持つようになりました。この公園にも観察に来たことがあります。鳥だけでなく、虫も好きですが、なかなか学校では話が合いません。

■まとめ

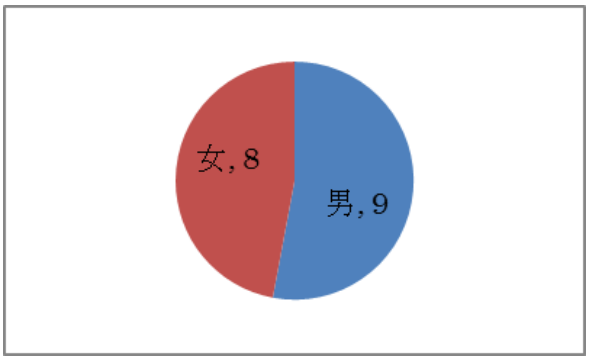
リーダーの皆さんの間で、参加者と仲良くなりお試し入会に誘うという「会員を増やすための探鳥会」の趣旨が良く共有されているという印象を受けました。集合場所までの道案内や配布物の用意、参加者への声掛けなど、どのリーダーの方からも、丁寧な気遣いが感じられ、初めての方も安心して楽しく参加できたと思いました。

（普及室／堀本理華）

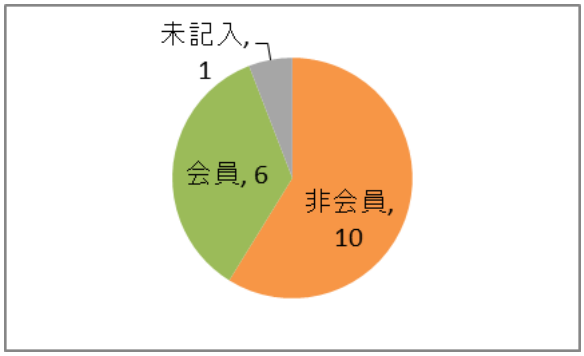
『巣箱の中をのぞいてみよう！代々木公園巣箱かけ教室』（東京）

【日　時】2014 年 11 月 24 日（月・祝）９時～12 時
【天　候】曇り
【場　所】代々木公園（東京都渋谷区）
【参加者】17 名　【リーダー】６名　【お試し入会者】４名（非会員参加者の４割）
【広　報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）
＜支部報＞ユリカモメ

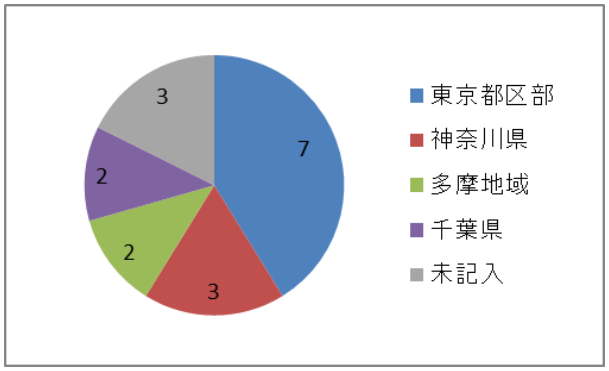
・性別



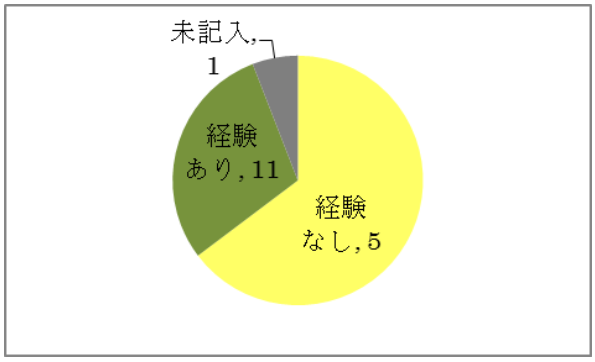
・会員／非会員



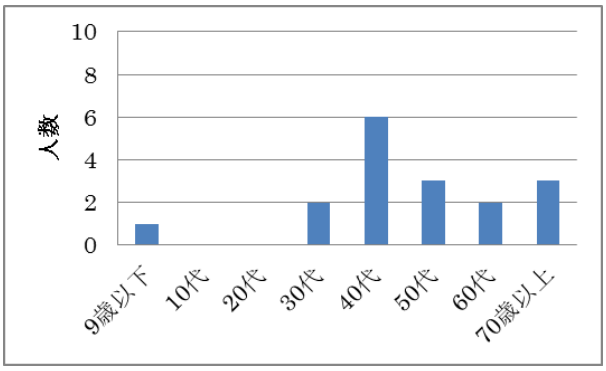
・お住まい



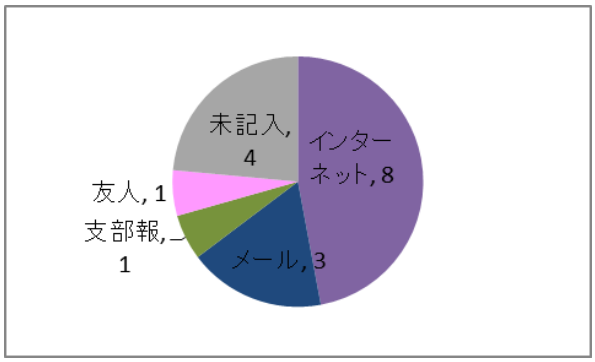
・バードウォッチング経験



・年齢構成

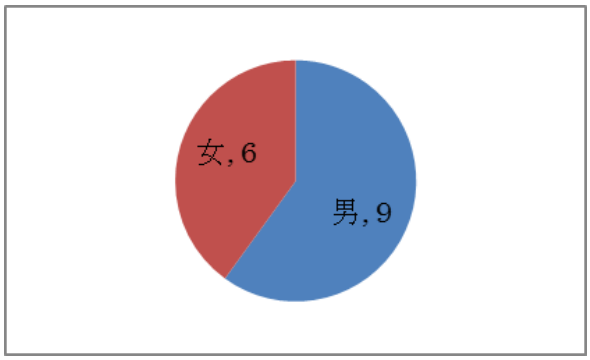


・何で知ったか

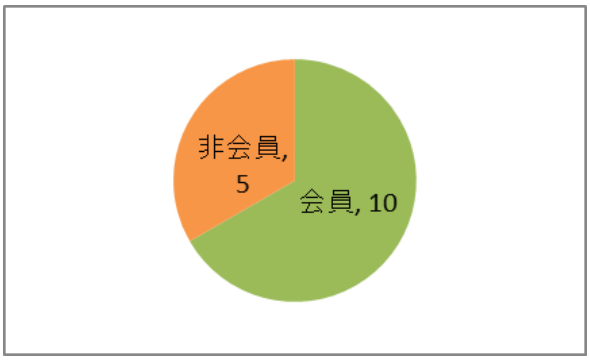


【日　時】2014 年 11 月 30 日（日）９時～12 時
【天　候】晴れのち曇り（時々雨）
【場　所】代々木公園（東京都渋谷区）
【参加者】１５名　【リーダー】５名　【お試し入会者】なし
【広　報】
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（10/17、20 に、関東、山梨、静岡在住の 8,663 名に送信）
＜支部報＞ユリカモメ

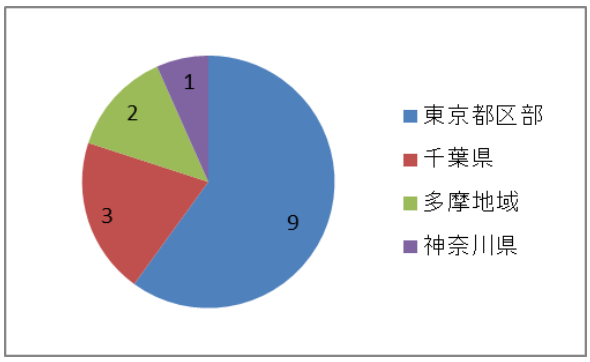
・性別



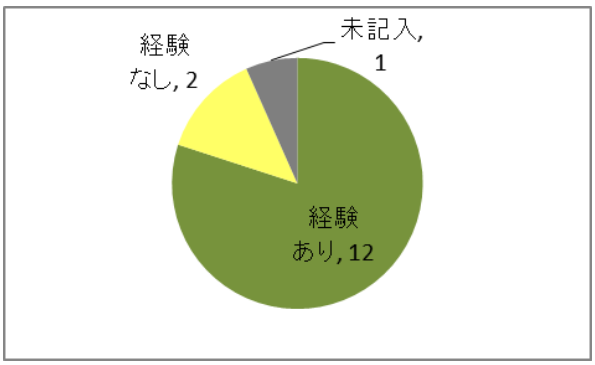
・会員／非会員



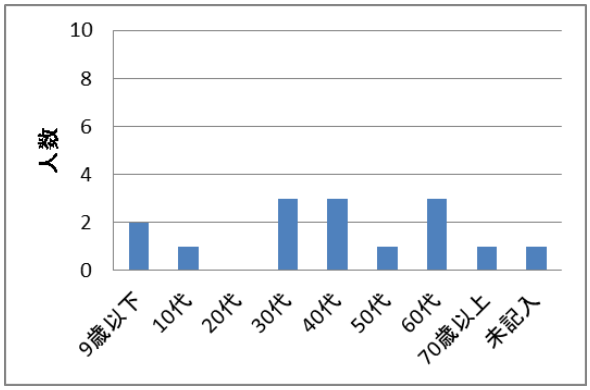
・お住まい



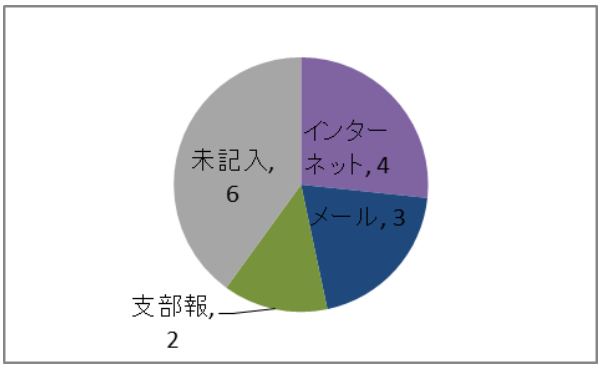
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

支部では例年、代々木公園内に架けてある巣箱の調査および掃除・メンテナンスを行っていますが、今回の巣箱かけ教室は、それら作業を参加者といっしょに行い、野鳥の生態について学ぼうというものです。

集合場所は代々木公園原宿門。明治神宮、代々木公園など緑豊かな一帯であり、時期としてはイチョウの黄葉が見頃、駅からも近く、各方面からのアクセスの良い場所での開催となりました。実際に当日は、東京だけでなく千葉や神奈川から足を運ばれた方も数名いました。

24 日はバードウォッチングが初めてという方が半数以上、30 日は会員の方が主でしたが、鳥に興味津々の小学生やレンジャーの活動に関心があるという方など非常に熱心な方々がご参加。参加者数が多くないこともあり、ほどよく参加者もリーダーもまとまり、会話を交わしながら和気あいあいと進められました。

■活動の様子

11 月も末にさしかかり、気温は低かったですが、参加者の皆さんはその点きちんと心得ているようで軽装の方は無く、寒さで活動が妨げられることは終始ありませんでした。

集合時、リーダーの皆さんが参加者に声を掛けたり、実物の鳥の巣を見せたりと、バードウォッチングが初めての方やお一人で参加された方であっても探鳥会の輪の中に溶け込めるよう心配りをされていたのが印象的でした。

はじめの挨拶の後、１時間ほどかけて園内を歩きながら自然観察。アトリ、ヤマガラ、コゲラ、シロハラ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラなどの野鳥が見られたほか、猛禽に狙われたと思しき野鳥の羽を拾ったり、カラスのものと思われるペリットを観察したりと興味深いものがたくさんあり、皆さん大いに楽しまれていました。また、リーダーの皆さんの野鳥に限らない幅広い知識も参加者の興味をひいていました。

メインである巣箱かけは、はじめに巣箱を利用する種や掛ける時期についてなどお話をしたうえで、実際に園内に掛けてある巣箱をはずして観察を行うというものです。

代々木公園は今年、夏に発生したデング熱対策として殺虫剤が散布されたため、巣箱の中にいっさい虫はいないのではと心配されていましたが、実際に巣箱を開けてみるとハエトリグモやヨコヅナサシガメ、アリグモなど何種類もの虫が出てきて一安心。

虫のほか、ハトやカケスの羽根や孵化しなかったスズメの卵、タバコのフィルターや手ぐすなどの人工物までさまざまな物が出てきました（参加者が帰った後に開けた巣箱からはヤモリも出てきました！）。巣箱の中の虫、巣材についての考察や、入り口の穴がナニモノかにつつかれた痕跡についてなど話は尽きませんでした。

観察を終えた巣箱は、清掃、補修をして元の位置に架け直します。また新たに今年の巣箱を別途設置します。新しい巣箱には参加者のうち１名に名前を書いてもらい（主にお子さん）、巣箱に愛着を持ってもらう工夫をするなど、ちょっとした気遣いがとても大切だと感じました。

▲巣箱の中の観察の様子

■参加者の声

30 歳くらいの男性：小学生の子どもが野鳥に興味を持っていますが、教えられる大人がいないので今回参加しました。リーダーの方の面白い話を聞けば、子どもは絶対に興味を持つと思っていましたが、実際そのとおりでした。参加して良かったです。

40 歳くらいの女性：財団が開催している「レンジャー養成講座」にも参加しています。また、動物園での活動にも参加しており、今回その仲間を誘って参加しました。今後支部の活動にも参加してみたいです。

■まとめ

初めて参加する方にとって、その一回は大

きく印象を左右します。「どなたでもどうぞ」とうたうことで、来やすく感じて参加した方もいるでしょう。声掛けなど一見当たり前に思われることでも、ちょっとした心遣いが実は参加者に大きく響いているのではないかと思います。初めてでもいっしょに楽しめる雰囲気づくりの大切さを再認識しました。

また、解説をしてくださるリーダーのキャラクターも魅力のひとつです。野鳥に詳しいのはもちろんのこと、たとえば巣箱架けに詳しいリーダー、虫の名前なら即座に答えられるリーダー、高いところにすいすい登りフットワーク軽いリーダーなど、役割を分担しつつ各々の個性が光っているのがなによりすばらしいと思いました。鳥に興味を持ちはじめて参加した方にとって、リーダーの皆さんとの交流が、自然についていろいろ学べたかと同じくらいに「この先も参加してみたい」と思えるかの鍵になるのではないでしょうか。

（普及室／高瀬桃子）

◆トコロジストになろう

第9回「トコロジストを目指して“昼探”三昧」

■きっかけは万博公園探鳥会

初めまして。日本野鳥の会埼玉の浅見と申します。箱田さんからのお誘いを受けて、この原稿を書いています。

実は、このコーナー第７回執筆者の平さんは、私が野鳥の会に入るきっかけを作ってくださった恩人です。記事を懐かしく読ませていただいていたところに箱田さんからメールをいただき、なにか因縁めいたものを感じてしまいました。平さんと初めてお会いしたのは、1990年 11 月 10 日(土)大阪府吹田市万博公園探鳥会でのことでした。仕事に追われ、ちょっと疲れ気味だった私に、タウン情報誌を見ていた妻が「こんなイベントがあるわよ」と教えてくれたのが参加のきっかけです。平さんはご記憶ないでしょうが、平さんの後ろにぴったりと付いてまわり、次々と野鳥を探してくれるその姿に感動していたのです。そして、初めて探鳥会に参加したその日のうちに入会手続きをしてしまったのです。あれから二十数年が経ち、今は生まれ育った埼玉で鳥を見続けています。

■職場で昼休みの探鳥会を実施

1992 年に転勤で関東に戻り、1994 年から1999 年まで埼玉県の上尾市にある職場に勤務していました。ここが、鳥見好きには絶好の地でした。職場から歩いて 10 分程の所に雑木林『西新井ふるさとの緑の景観地』（通称、西新井の森）があり、昼休みの探鳥会（略して“昼探”と呼んでいます）を始めました。その後、転勤で名古屋、東京と転々とし、2013 年に再び上尾の勤務地に戻ることができました。時を同じくして、トコロジストという言葉を知りました。そこで、一念発起。「トコロジストになろう！」と、西新井の森での“昼探”を再開しました。

昼休み、大急ぎで昼食を済ませて職場の友人を誘って西新井の森へ向かいます。コースは、添付地図で⑤→⑥→③→②→①→⑦→⑥→⑤の順で一回り。⑤のさらに北側５分程の所にある職場に着くころには、昼休みが終了しています。2013 年 4 月の“昼探”再開以来、今年12 月 10 日で 132 回を数えました。この間、毎回ノートに記録をつけて、時々まとめては『しらこばと』（日本野鳥の会埼玉の会報誌です）に投稿しています。今のところ、活動はここまで。自然保護に直接結びつく行動には至っていませんが、「記録を残しておけば何かの時に役立つのでは？」と続けています。日本野鳥の会埼玉のホームページから、『しらこばと』バックナンバーが閲覧できますので、よかったら見てください。西新井の森の“昼探”記録掲載誌は、1996 年２月号（№142）、1998 年７月号（№171）、ここまでが第 1 期の記録でネットから閲覧可能です。“昼探”再開後の記録は、2013 年９月号（№353）、2014 年９月号(№365)で、こちらも追々ネット上で公開される予定です。

トコロジストを目指しましたが、現実はそんなに甘くはありませんでした。嘱託とはいえ、いまだサラリーマンの端くれの身、昼休みだけ

の活動では中々トコロジストになれそうにありません。今のところ、鳥を中心に自然を楽しみ、記録するだけのレベルにとどまっています。でも、“昼探”は楽しいです。そして、時々素晴らしいプレゼントを用意してくれます。つい先日（“昼探”再開第 130 回(12/2)）、③の地点でアオゲラ２羽を同時に観察！　２羽は、鳴き交わしながら木の幹を一緒に上ったり下りたり。額が見えず、雌雄の判別ができなかったのですが、ひょっとして早くも繁殖行動？　そして、第 131 回(12/8)には、今度はアカゲラの♀が⑤の地点で目の前の桜の幹に止まり、盛んにキツツキ！　同行の友人は、アカゲラとの初めての出会いに大感激でした。といった具合で、楽しみ中心の“昼探”ですが、トコロジストを目指してこれからも肩肘張らずに続けていきたいと思います。

■継続した観察記録の大切さ

自然観察で大切なのは、継続と記録と情報の発信だと思うようになってきました。自然に親しみ、自然の素晴らしさを感じ、それを未来に向けて残すためには、継続した観察と記録そしてその情報の発信が必要だと思います。

最近、気になることが起こっています。西新井の森のあちこちに測量の痕跡が見られるのです。測量の基準となるマークが、あちこちに打ち込まれピンク色のリボンが木々に結び付けられています。アクセス道路の一部も拡張されています。工事や測量をいつの間にやっているのやら、短時間の“昼探”ではこれらの作業に出くわしたことがなく、作業の目的も未確認のままです。行政の情報公開を期待してインターネットで色々検索してみたのですが、何もヒットしませんでした。機会を見て、市か県の担当部署に問い合わせをしたいと思っていますが、重い腰が動かないまま、鬱々とした日々を過ごしています。「万一、宅地開発なんてことだったらどうしよう。“昼探”の記録が森の保護に少しは役立つかな。」などと考えていますが、これが杞憂に過ぎないことを祈っています。西新井の森がいつまでも自然豊かで、楽しい昼探の地であり続けますように。

（日本野鳥の会埼玉／浅見徹）

▲県内探鳥地案内から「さいたま市西区　大宮花の丘公園周辺」

◆探鳥会保険集計結果（2014 年 10 月分）

10 月は 69 支部からご報告をいただき、計 233 回の探鳥会が開催され、のべ 4,788 人が参加されました。

表 2.10 月の探鳥会保険集計結果（2014 年 11 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	30	15	2	47
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	6	7	2	15
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	14	2	2	18
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	65	19	12	96
小樽支部	2	6	6	3	15
苫小牧支部	1	12	0	2	14
室蘭支部	1	23	5	3	31
函館支部	1	2	4	1	7
道南桧山	2	16	25	7	48
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	21	8	2	31
秋田県支部	3	30	1	3	34
山形県支部	−	−	−	−	−
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	19	5	6	30
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	2	23	5	5	33
ふくしま	2	36	1	4	41
郡山支部	1	6	0	2	8
二本松	1	4	0	1	5
白河支部	2	4	0	5	9
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	19	3	1	23
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	103	57	12	172
栃木	−	−	−	−	−
群馬	4	46	16	13	75
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	6	168	22	40	230
千葉県	8	110	25	26	161
東京	11	425	18	56	499
奥多摩支部	14	141	44	39	224
神奈川支部	10	138	34	36	208
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	40	5	2	47
石川	2	30	5	5	40
福井県	1	14	3	2	19
長野支部	1	10	0	2	12
軽井沢支部	1	13	3	1	17
諏訪	1	7	16	2	25
木曽支部	–	–	–	–	–
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	2	19	1	3	23
富士山麓支部	1	4	1	2	7
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	14	0	2	16
南富士支部	2	29	0	3	32
南伊豆	1	10	0	2	12
静岡支部	4	35	10	8	53
遠江	3	55	17	11	83
愛知県支部	14	108	121	37	266
岐阜	–	–	–	–	–
三重	2	15	6	4	25
奈良支部	3	126	1	6	133
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	5	34	26	10	70
京都支部	6	82	46	18	146
大阪支部	23	386	79	97	562
ひょうご	9	137	58	26	221
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	31	3	3	37
島根県支部	1	6	0	1	7
岡山県支部	5	85	35	12	132
広島県支部	2	26	18	2	46
山口県支部	1	12	5	1	18
香川県支部	2	52	10	2	64
徳島県支部	5	55	8	5	68
高知支部	5	33	54	5	92
愛媛	5	28	25	9	62
北九州	3	42	2	3	47
福岡支部	6	96	6	13	115
筑豊	5	30	9	5	44
筑後支部	4	20	5	4	29
佐賀県支部	2	24	9	2	35
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	3	25	7	3	35
大分県支部	1	15	6	1	22
宮崎県支部	2	11	34	3	48
鹿児島	0	0	0	0	0
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	1	1	2	1	4
全国	233	3,227	958	603	4,788

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇鳥の声をどう表すか？

探鳥会で「アオジの地鳴きはチッと強い声で、カシラダカは弱く、クロジではまろやかです」と教えられたとき、最初は理解できず腹立たしかったのを覚えています。めげずに何度も聞いているうちにそれで聞き分けられるような気になりましたが、さらに、アオジでも雌雄やシチュエーションによって強さに違いがあること、チチッと続けて鳴くと図鑑に書かれているホオジロでも、チッと一声、カシラダカに似た声を出すこともあることを知りました。アオジは強い声のように書かれた図鑑もありますが、それはホオジロ科で比較した場合であり、初心者に対してはいかがなものでしょうか？

スズメでよく聞く声と比べると細い声で、声量も少なく、「強い」は適切とは思えません。

連携団体総会の記念講演（11 月８日）を担当された西村眞一さんは、昭和 13 年（1938 年）発行の中西悟堂著『野鳥ガイド』は、鳥の声を野外で聞き分けられるようにカタカナ表記を一般化させた功績があるかも知れないと言っておられます。例えばシジフカラ（四十雀）の声は・・・ツィチペー、シチピー、チンチンカラカラ、チジュカラ、ツーピィ等快活に鳴き、ジュクジュクジュクといふ早口のグゼリを入れる・・・と書かれていますが、いわゆる大図鑑でもここまでの記載はありませんでした。過去の図鑑で声に詳しいのは、1952 年初版の清棲幸保著『日本鳥類大図鑑』くらいではないでしょうか？

高野図鑑もカタカナ表記が多用されていますが、地鳴きもさえずりも、識別に役立つ典型的な声を選択し、また上手に表現されていると思います。メジロ、ミソサザイ、ムクドリなどでは警戒を意味する声も紹介されており、2007 年の増補改訂の際には、私がシジュウカラなどで警戒対象による声の違いにも触れました。

ただし、「カタカナ表記ではわからない」との声も耳にするので、増補改訂版では先に、当会発行の CD の解説にも合わせて「声の質を比べる」「鳴き方を比べる」など、聞き分けの方法も書き足しています。また、交尾の声、幼鳥の声や声変わりなどの課題にも触れました。ちなみに、新版ではスズメのひなの声も書き足したかったのですが、嘴の色の変化について追記したところ、スペースがなくなってしまいました。

◇ウグイスはチャッ？ジャッ？

増補改訂版では、ワタリガラスの声を修正してあります。高野はコホッまたはカポンという表現をしていました。他の図鑑ではカポン、カポンなどの表記もありましたが、私はそのような声は聞いたことがありません。カラス科では最も広く分布し、声のバリエーションも研究されている種ですが、日本では冬の北海道で少数が見られる程度です。よく観察している会員の方に聞くと、春先にそのように鳴くこともあるが、よく聞くのはカラス科らしいしわがれ声、ただし、さまざまに鳴くとのことでした。結局、頻度が高くワタリガラスとわかりやすい声と思われる「グァララ」という表記を先にして、高野の表記が間違いではないので「コホッ」も残すようにしました。

同じ声でも人によって聞こえ方が違うこともあるので、カタカナはできるだけ誰にでもそう聞こえるような表記にしなくてはなりません。高野の聞こえ方が独特だったのか、一般的とは思えないため、新版で書き直したものもあります。ミサゴはチッ、チッでしたが声の質が表現できていないと考え、「ピョッ、ピョッ」とさせてもらいました。同様に、カワラヒワの雌や幼鳥が発する声のチュンチュンチュンという記載も「ピュンピュンピュン」に修正しました。コシャクシギの声については他の図鑑と違うという指摘がありましたが、私自身は聞いたことがありませんでした。叶内拓哉さんによると「微妙な鳴き方をするようなので、高野さんにはそのように聞こえたのではないか？」とのことでしたが、相談の結果、他の図鑑の表記も参考にして、「クィーッとかピピピなどと鳴く」としました。

「高野の解説は間違いと言えない限り、できるだけ生かす」が基本方針なので、微妙な点は

調べに調べ、悩み続けながらも決断を下します。新版ではウグイスも手を入れ、チャッ、チャッを「ジャッ、ジャッ」としました。理由は、声の質がスズメの一般的なチュン、チュンと比べると明らかに低く、濁りが強いことを現したかったこと、似ているミソサザイの地鳴きとの違いを明確にしたかったこと、『新・山野の鳥』の解説と揃えることです。

新版で声の解説を追記した例ではオオヨシゴイがあります。これまでヨシゴイに似ているような表記でしたが、過去の郡山支部報などでも書かれていたように、ヨシゴイと比べるとテンポが速いので、そのように書き足しました。キンメフクロウでは高野は声を聞いたことがなかったのか触れられていませんでしたが、夜行性で声は重要なので、追記しました。

◇そっくりのムシクイを識別するには？

外見からはほとんど識別できないのに、目録７版で３種に分けられた元メボソムシクイについては、書き足すスペースも厳しい上に、キバラムシクイやヤナギムシクイも追記しなくてはならないので思案しました。

メボソムシクイの亜種から別種とされたオオムシクイとコムシクイは図版を加えずに、渡部良樹さんに声や習性の違いを書いてもらいました。一度あがった印刷を見ると、なんとか地鳴きまで触れられそうなので、２種の声については次ぎのようになる予定です。「オオムシクイはジジロジジロ、コムシクイはジリリリ・・・とさえずり、地鳴きはオオムシクイが固い感じのジッ、コムシクイがやや高いビッだが良く似ている。２音連続して発することもある。」

渡部さんにはエゾムシクイの類似種として、アムールムシクイ（ウスリームシクイ）の声も書いてもらいました。目録７版では検討中とされている種ですが、声がわかれば記録も増えるのではないでしょうか？

また、イイジマムシクイについては元三宅島のレンジャーで当会自然保護室の山本裕の指摘によって増補改訂版で地鳴きを追記しましたが、新版ではさらにさえずりのバリエーションを整理しました。

（普及室／安西英明）

▲目録７版で掲載種となったキバラムシクイとヤナギムシクイは追記することにして、高野さんを師と仰ぐ谷口高司さんに図版をお願いしました。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信１２月号の電子メール版の購読者数は、先月から８名増えて８３３名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信１１月号電子メール版の購読者数（2014 年１２月２３日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	1	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	2	京都支部	132
北上支部	2	大阪支部	21
宮城県支部	38	ひょうご	8
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	23	筑豊	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	35	佐賀県支部	3
千葉県	15	長崎県支部	1
東京	48	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	13	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	833

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

「会員を増やすための探鳥会」では、「野鳥に興味があり、初心者向けのイベントを探していた」という方たちにたくさんお会いしました。これからも支部の皆さんと一緒に、初心者向けのイベントを開催していけたらとお思います。

今年も１年間ご購読いただき、ありがとうございました。来年もよろしくお願いいたします。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 21 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2014 年 12 月 24 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org